

# ふじおがトーク 「市民とともに歩む ふじおかの未来」

## 市長インタビュー

藤岡市長 新井利明

藤岡市は昨年、市制施行60周年を市民総出で祝いました。昨年来を振り返ると共に、藤岡市の現在、未来に向けた取り組みを新井利明市長に聞きました。

### 「市制施行60周年を振り返って」

昨年は、藤岡市の長い歴史の中でも一つの節目の年でした。記念式典、花火大会などの記念事業は、市民や各種団体の皆さんに実施委員会をつくってもらい多くの意見をいただきながら実施することができ、どれも大成功でした。イベントは行政だけではなかなか大きくできないのですが、皆さんのご理解があったからだと感謝しております。昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあると感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後の70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにした

いか、どうあったらいいのかを、しっかりと考えていくことが大切だと改めて思っています。

### 「この10年を振り返って」

●鬼石町との合併と今後について  
平成18年1月に鬼石町と合併し9年が経ちました。今年は鬼石総合支所を建て替えます。住民の皆さんが一つのところに寄って、色々なことがかなうように集会所もできる、行政機能 公民館機能、防災機能も備えた施設となります。近くに情報センターもありますから、施設を集約して地域がますます活性化し、交流が広がり、市民と行政がより近くなることを期待しています。

●高山社跡の世界文化遺産登録を受けて  
世界遺産を保有することに、まず市民全員が誇りを持っていただきたいと思えます。高山社跡の整備については、昔の姿に徐々に戻していきます。長い年数がかかるかもしれませんが、見学者には少しずつ変わっていく様子も見ていただきます。高山社は昔の農家ですから建物を見てあまり楽しめるものではありません。しかし、そこで行われていた養蚕教育、女子教育といったものをしっかり学べるよう、体験館をはじめ周辺整備を進めていきます。



高山社学

現在、小学生から中学生までが、授業で高山社学を学んでいます。子供たちには、外出した際に「藤岡はどんなまちですか」と聞かれたら、「高山社という世界遺産があるんです」と、さらには高山社を説明できるくらいになってもらいたいです。世界遺産に登録される前、国際機関の調査員がいらした際に、登録に向けて大事なことは「その地域に住んでいる方々の熱意」だとおっしゃっていました。藤岡では「高山社を考える会」という組織があって、そこから企業や団体に認知度が広がっていききました。市民と行政とが一つの方向に動くとき、相応大きな力を発揮するのだと実感しました。



### ●藤岡の偉人について

60周年の区切りに、藤岡の偉人たちに光を当てた事業を行いました。だれもが知っている和算の大家・関孝和翁は、和算という大変難しいものを江戸期に研究されていたことはすごいことです。航空工学者・堀越二郎翁もしかりで、日本の飛行機の発展に力を注がれました。現代に置き換えても偉人たちから学ぶことは多いと思っています。

### ●群馬医療福祉大学の誘致と今後の連携について

大学の誘致から5年が経ちました。看護学部の卒業生が、藤岡総合病院をはじめ市内の病院に勤務されています。中には県外から来られた方もいて、人口増加といった大きな課題にも効果がありません。大学は知的財産を多く保有していますので、教授や学生さんと、行政と団体や市民が連携することで、市全体に大きな成果をもたらすことにつながっていききたいです。

### ●特別支援学校の誘致について

昨年4月、県立特別支援学校の誘致・開校がかないませんでした。私は市長就任以来、一貫して障がい者問題に取り組んできました。県に学校の開設をお願いする原動力は、障がい児をもつお母さん方の熱意でした。それまでは高崎市内の学校への送迎だけでも、多くの労力と時間がかかっていました。今後は高等部の誘致に取り組みます。「困っている人に光を当てる」これは私の信条です。

### 「市長のこれからの取組みについて」

#### ●少子高齢化と人口減少化社会の到来に対して

これは大変大きな問題です。その対策は広範囲にわたりますが、特に若い人の働く場所をつくっていかないと、地方はどんどん人口が減ってしまいます。高校を卒業して進学や就職により県外に出て行かれた若者から、藤岡で就職を希望しているという声を多く聞きます。その度に「働く場所を確保してあげなければいけない」と強く思います。企業誘致や雇用創出のための施策はこれからもしっかりと取り組んでいきます。もう一つは健康ですね。高齢者の筋力トレーニングを市内全域で行っていますが、高齢者にはやはり元気でいてもらいたいです。教育、雇用、健康これらの問題が上手く一緒に対応できると、その都市の力がぐっと伸びると思っています。



高齢者筋力トレーニング教室

#### ●東日本大震災と大雪の経験を活かして

地震は予兆も無く突然訪れますので、だれでも常に意識を持っていなければいけません。また、昨年のような大雪は今後も起こりうると思いますので、その対応を盛り込んだ地域防災計画を見直しています。大雪で一番困るのは道路の除雪です。昨年は土木建設業の方々に大変お世話になりましたが、これからも連携を密にして、いざという時には早期に取り掛かる体制を整えておくことが大切です。市民の安全と安心をしっかりと確保することが、行政の最重要課題です。

#### ●観光について

高山社跡をはじめ桜山、ふじの咲く丘など市内の観光地は、世界の名だたる観光地とは違います。だからこそ、継続してお客さんに来ていただける施策を考えていきます。誘客には英語圏や中国、東南アジアにも目を向けていきたいです。市内や周辺の観光施設を周遊してもらう仕組みも大切だと考え、隣接する神川町との連携も進んでいます。そこで必要になってくるのが新橋です。観光連携のほか藤武橋の渋滞緩和にも役立つと考えています。今年には関係する市町で期成同盟会を組織して、国や県と話し合う体制を整えます。大きな効果が期待できますので、しっかりと取り組んでいきます。



ふじの咲く丘

#### ●公立藤岡総合病院の統合について

外来棟と入院棟が離れた場所にあることによる患者さんの不便を解消し、医師や看護師さんの働きやすい環境もつくろうということが統合に向かう大きな要因でした。財政的に厳しい面もありますが、今年から建設工事に入り着実に進めていきます。

#### ●市民協働のまちづくりの推進について

最近、協働という言葉がいろいろな場面で行政の中に出てきます。昔から行政と市民、団体は協働してきましたが、再認識する意味で文章にしたり、具体的に協働したりしています。藤岡の市民は温かい気持ちの方が多くですから、市がこうやっていきたいと思います。ご理解をいただいで、協働してまちづくりが行えていると思っています。今後もこの協働をさらに深めていくことで、住みやすいまちづくりが進んでいくと確信しています。